

平成19年度第4回北海道ブロック協議会

第4回北海道代協常任理事会

議 事 録

平成20年1月11日(火) pm 1:00~5:00

於：北海道厚生年金会館

出席者

本部副会長	福澤 久	福島	常任理事	森 優	旭川	政治連盟	梅基 伸男	札幌
本部常任理事	高梨 重勝	函館	常任理事	鈴木 雅裕	小樽	札幌副支部長	見上 峰夫	札幌
会長	向出 明彦	札幌	常任理事代理	古宇田 渉	苫小牧	札幌副支部長	佐々木雅之	札幌
副会長	長谷部幹夫	旭川	常任理事	多和 康司	千歳	札幌副支部長	坂本 和正	札幌
副会長	阿部 實	札幌	常任理事	松浦 則雄	函館	事務局長	末原 正二	札幌
副会長	石岡 憲義	函館	常任理事	松野 裕一	釧路	事務局	藤田 和代	札幌
副会長	長谷川 勇	帯広	常任理事	羽田 武史	帯広	オブザーバー		
副会長	長尾 忠正	釧路	監事	富谷 哲夫	札幌	函館事務局長	小野 修	函館
専務理事	山口 史朗	札幌	監事	木下 裕章	小樽	釧路副支部長	山吉 行雄	釧路
常任理事	町野 泰明	札幌	本部組織	伊藤 輝雄	函館	釧路副支部長	大高 喜弘	釧路
常任理事	廣瀬 禎	室蘭	本部教育	山崎 善仁	札幌	国民年金基金	佐野 浩司	

司 会 専務理事 山口史朗

1. 開会の辞(長尾忠正)

2. 会長挨拶(向出明彦)

1、激変の時代、自店の生き残り、職域を守る為「組織の一体化」に努力する。

3. 日本代協副会長挨拶(福澤 久)

1、販売チャネルの変更(新たに多くの保険会社が設立された)があった昨年、今年は「自らのビジネスモデル」を探求していくことが大事

4. 日本代協常任理事挨拶(高梨重勝)

1、「代協ブランド」の構築を図る。

5. 倫理綱領の朗読(梅基伸男)

6. 議長選出

議長には長谷部副会長(旭川)が指名され、承認を得た。

また議事録作成者:末原事務局長(札幌)、議事録署名人に梅基伸男(札幌)、見上峰夫(札幌)各氏が指名され了承を得た。

7. 議 事

[I] 報告事項

- (1) 各支部報告(会議資料参照)
- (2) 日本代協常任理事会報告(高梨重勝)

議事録参照

(3) 日本代協委員報告

- (I) 組織委員会(伊藤輝雄)

後の会員増強審議にて

- (II) 企画環境委員会

資料参照

- (III) 教育委員会(山崎善仁)

- 1、北海道代協において20年1月に28名の認定保険代理士が誕生した。
- 2、4月17日第9期4回目、18日第10期2回目の保険大学セミナーを開催する。
- 3、第11期の保険大学受講者を札幌支部の目標を1名増やし、38名とする。

- (IV) 政治連盟(梅基伸男)

- 1、未納支部は早期納入お願いしたい。

- (V) 地球環境委員会(福澤副会長補足)

- 1、尾瀬湿原が独立して国立公園となったことに、日本代協が協賛した。
- 2、日本代協は今後も「地球環境を守る」との観点より各種のイベントに携わっていく

- (VI) 全国損害保険代理業国民年金基金

佐野浩司氏より挨拶があった



[II] 審議事項

(1) 会員増強キャンペーンについて

- 1 1月～3月までを増強月間ときめ、各支部の現況と3月末までの目標人数(会議資料参照)
- 2 支部の取り組みについて

札幌支部－目標はやり遂げる

室蘭支部－合併、廃業にて減少しているが、会員同士がものを言える雰囲気作りをし、目標達成に努力する。

旭川支部－合併が進み会員が減少している。「更新試験の免除」の話題をツールとして声かけをしていく。また新年会の折に保険各社1名の要請をしていきたい。

小樽支部－整備工場等にも勧誘に行きたい。

苫小牧支部－減少している分は何とか取り戻し目標を達成したい。

千歳支部－退会者に復帰してもらうよう声掛けしたい。

函館支部－今月1名の入会があり目標は達成できる。

釧路支部－幹事の協力にて、目標は達成しているが、後2会員の増強が見込める。

他の支部も見習って欲しい。

帯広支部－会員同士の合併のため達成していないが、代理店賠償のPRにて未加入社を勧誘したい。

(2) 公開講座開催の件(山口史朗)

- 「ゼロからの風」の上映をメインに北海道代協の公開セミナーを開催したい。
- 札幌コンベンションセンターにて2月17日(日)、500円の入場料にて200名程度の参加を見込んでいる。チケットは今日から販売したい。

(3) 一般社団法人設立について

1. 北海道代協一般法人設立準備委員長 長谷部幹夫氏より第2回の中間答申がなされた。
会議資料参照
2. 委員長から、本部より配布された「設立マニュアル、日本代協標準定款」をみると今までの会議が徒労に近かったとの感想が述べられた。
3. 財務検討小委員会答申が山口史朗委員長よりなされ、資料を基に説明がされた。
資料について、次のことを想定して作成に当たった。(資料参照)
 - 1 事務所の同一使用、あるいは別との比較
 - 2 従前の事業を想定
 - 3 科目は比較できる範囲
 - 4 会計の責任上、人件費、印刷費、事務費等は多めに計上している。
 - 5 年度のずれはあるが、1年間として比較した。
 - 6 繰越金は増えていないものとする。



以上のことを踏まえ次の事項が決定された。

1. 定款については本部より示された内容に従って北海道代協の定款を作成する。
2. 設立時に必要とされる資金については、本部の融資制度より200万を借りる(無利子、5年間)こととする。
3. 北海道代協に納入する会費は一正会員、年間2万円(事務所は札幌支部と同居とする)とする。

4. 会費は年度11月までに完納する。
5. 設立準備委員会は解散し、新たに設立登記準備委員会を設置する。委員長に山口史朗氏(札幌)を指名し、人選は委員長に一任する。

◎決定までの審議内容の経緯 (★質問 ☆回答 ◇意見)

- 1、★ 本部から示された定款を北海道代協の実情に合わせて変更できることは出来ないか。
☆ ●、○の印がついている項目以外は独自に変更できる。
- 2、★ 北海道という地域性、経費の削減という観点より総会規定、役員規定等に代議員制度は取り入れられないか。
☆ 法人化の決定以前より7年間、審議の経緯を見てもらいたい。46都道府県の一体化も認識して欲しい。
☆ タイムスケジュールから見て、役員規定の変更は難しいと思う。今後の経緯を見て実情に合わせた内容を運営細則に追記できるのではないか。
- 3、★ 会計年度の煩雑さを避ける為、設立時を4月1日に出来ないか。
☆ 施行日に合わせて今まで準備し、他の諸機関にも報告している。朝令暮改的なことは信用にも関わるので、実務上少しは遅れることは仕方ないが、設立日はなるべく合わせて欲しい。
- 4、★ 登記費用、運営費用について
 - ◇ 基金は支部単位で集めたらどうか。
 - ◇ 出資金について会員のアンケートをとってはどうか。
 - ◇ 会費を前倒しして集めてはどうか。
 - ◇ 基金を集め、なおかつ会費の値上げでは会員の同意は得られない。
 - ◇ 会費の値上げについては、役員の減少、メール、ホームページの活用等も含めて、経費の見直しが必要ではないのか。

8. 閉会の辞(阿部 實)

議事録作成者 末原 正二

議事録署名人 梅基 伸男

議事録署名人 見上 峰夫